

ボランティアグループ Good Job の活動報告

仲森 昌也*、本田 康子**

The Activity Report of Volunteer Group ‘Good Job’

Masaya NAKAMORI*, Yasuko HONDA**

Abstract We established the volunteer group in 2001. The volunteer group was named ‘Good Job’ (GJ). The GJ's volunteer programs support activities by students who wish to cooperate in the promotion of local communities. There are various types of volunteer activities in general. The GJ's activities can be divided into about three types as shown below. The three types are a social welfare volunteer, a scientific volunteer and an event volunteer for regional revitalization. The activities were carried out in Kumano in 2001-2010. Because our school was moved to Nabari in April 2011, the activities were carried out in Nabari in 2011-2015. This paper is reported that the GJ have been acted in the case of the volunteer in Kumano City and Nabari City. As these results, the GJ's members are able to improve communication skills and the valuable experience to help local residents and society. Moreover, the activities will be able to support the local residents and society. Such the GJ's activities will enable the school and the local community as well as GJ's members to gain profit (Win-Win-Win).

Keyword Volunteer Activities, Regional Revitalization, Social Welfare Activity, Scientific Volunteers

1. はじめに

近大高専生のボランティア活動は、団体として活動が始めたのが 2001 年からで、文化祭前後に行っていた地域清掃活動がきっかけで「Good Job」という名称の団体としての活動が始まった。創設当初の 2001 年頃は三重県熊野市に校舎があり、学校へ通学可能な三重県南部と和歌山県南部エリアは、過疎化と少子高齢化が進んでいて、労働力供給の減少や地域経済社会の存続といった問題があった。このような問題の解決のための一助になればということで、社会福祉活動、地域振興活動を行ってきた。また、「理系離れ」という全国的な問題を解決するためのサイエンススクールの活動なども行ってきた。本報告では、団体ができて 15 年、名張に移転してから 5 年のボランティア活動を行ってきたことについて、報告している。

2. 2001～2010 年度のボランティア活動

学校の所在地が三重県熊野市にあった時代の主なボランティア活動を表 1. に示し、この中の代表的な例として、海山町 2004 水害復興ボランティア中の写真を図 1 に示した。

表 1. 2001～2010 年度のボランティア活動

社会福祉系ボランティア活動
・熊野市社会福祉協議会からの依頼によるボランティア活動
・紀南ひかり園、東紀州くろしお学園等の障がいを持っている方の教育機関からの依頼によるボランティア活動
・社協ふれあいフェスタへのボランティア活動
地域振興ボランティア活動
・地元の記念通り商店街主催のいこらい市へのボランティア活動
・七里御浜のこいのぼりイベントのボランティア活動
・花の窟屋神社例大祭へのボランティア活動
・サイクルロードレースイベントのボランティア活動
・響鼓まつりイベントのボランティア活動
・海山町 2004 水害復興ボランティア
サイエンス系ボランティア活動
・熊野少年自然の家の「熊野バリ Do・erai・Do キャンプ」へのボランティア活動
・朝日新聞社の「モリゾートキッコロの自然体験キャンプ」へのボランティア活動
・近大高専主催のサイエンススクールのボランティア活動

*近畿大学工業高等専門学校

総合システム工学科 電気電子コース

**近畿大学工業高等専門学校

総合システム工学科 制御情報コース



図 1. 海山町 2004 水害復興ボランティア風景

三重県熊野市に学校があった時代は、労働力供給の減少が著しかったため、地域振興系のボランティアを平均すると月に 2 回以上のペースで積極的に行っていた。

3. 2011 年度以降のボランティア活動

2011 年 4 月に三重県名張市に近大高専が移転して、最初のボランティア活動が 2011 年 3 月に起きた東日本大震災写真修復活動でした。東日本大震災復興ボランティアに関しては、3 月の春休み中に実際の現地へ行ってボランティア活動を行った学生もいました。2011 年度に行った主なボランティア活動実績を表 2 に示した。名張に移転してきて、ボランティア団体としての知名度がまだ少なかったため、ボランティア依頼も少なかったが、学内外でプレゼンテーション発表をする機会がある毎に、近大高専のボランティアグループ *Good Job* の知名度は年々広がっていった。

表 2. 2011 年度の主なボランティア活動

社会福祉系ボランティア活動	
<ul style="list-style-type: none"> ・ヤングミドナサポーター・・・献血の呼びかけのボランティア ・昭和保育園の夏のお楽しみ会のボランティア ・名張市障がい者スポーツ大会のボランティア ・伊賀つばさ学園の「げんきっこ」の活動に参加 ・エコキャップ収集活動(世界の子供たちにポリオワクチンを) 	
地域振興ボランティア活動	
<ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災写真修復活動「思いで戻し隊・なばり」のボランティア活動 ・上八町 七夕祭り ・SMASH CAMP 学生パフォーマンス LIVE 2011 ・名張宇流富志禰神社秋祭り 神輿・太鼓担ぎのボランティア ・なばり街道市のボランティア ・障がい者による音楽コンサート(和太鼓とゴスペルのコラボ@堺) 参加 ・ハート&ハートコンサートの駐車場・ホール系のボランティア活動 	
サイエンス系やその他のボランティア活動	
<ul style="list-style-type: none"> ・各種団体主催のサイエンススクールのボランティア活動 	

名張に移転する以前は、メンバーは十数人であったが、名張に移転してから、学生のボランティア登録数が年々増え、学生もいい経験ができ、市町村・各種団体も助かるという win-win の関係が出来上がっていった。

ボランティア登録学生数が増えてきて、学生へのボランティア依頼の周知が難しくなってきたため、従来までの掲示板やホームルームでの連絡方法に加えて、グループウェア(サイボウズ Live)を導入した。この導入により、急に変更になった場合などの緊急の連絡がスムーズにできる

ようになった。

また、祭りなどのイベントで多人数の応援を必要とされるボランティアなどは、運動系・文化系の各クラブに応援を依頼し、学校全体で対応して地域貢献する体制となった。

2012～2015 年度の主なボランティア活動の実績を表 3 に示した。また、学生ボランティアの登録者数の推移を表 4 に示した。学生ボランティアの登録者数は、年度途中での登録者もいて、登録者数の確定はできにくいですが、毎年年度初めにリセットして、毎年行っている学生でも毎年度初めに登録をしている。

表 3. 2012 年～2015 年度の主なボランティア活動

	主な活動実績
1 月	伊賀での献血啓発活動
2 月	名張での献血啓発活動
3 月	デイサービス「そらまめ」のボランティア 怪人二十面相の貼り絵の制作ボランティア
4 月	曾爾ボランティア養成研修 青蓮寺の蓮の植え替え
5 月	百合小子供クラブ 田植え体験イベントの手伝い
6 月	名張市障がい者スポーツ大会のイベントボランティア
7 月	NPO 法人名張市手をつなぐ育成会「親子療育キャンプ」 献血啓発活動(松阪・伊勢・津・名張・鈴鹿) 赤目四十八滝・鮎の放流とつかみ取りのボランティア 第 22 回世界少年野球大会(三重・奈良・和歌山大会)ボランティア 昭和保育園・夏のお楽しみ会の手伝い オランダ国立南大学の学生との交流 みえの育児男子親子キャンプへのボランティア キッズイングリッシュ
8 月	つつじが丘夏祭りのボランティア 小学生の宿題を一緒に手伝う企画 献血啓発活動(熊野) 曾爾高原での 1 泊 2 日のキャンプのボランティア わくわく科学実験 甕穴(おうけつ)まつりへのボランティア 平和の集いのボランティア(青蓮寺)
9 月	障がい者スポーツ大会(2012) 名張市のお祭りでの神輿担ぎ 介護老人福祉施設・ふくにし祭りのイベントボランティア 青蓮寺でのコンサートの手伝い
10 月	街頭で赤い羽根共同募金の呼びかけ 子育て応援わくわくフェスタ こども何でも体験団へのボランティア 障がい者スポーツ大会(2015)
11 月	名張市ジュニアリーダー養成講座 三重県赤十字血液センタークリスマス飾りつけ ハート&ハート・フェスタのイベントボランティア
12 月	やなせ宿喫茶のボランティア 赤い羽根共同募金の街頭募金活動
通年	エコキャップ活動 ヤングミドナサポーター活動 環境美化活動

表4は毎年度5月現在での登録者数で、表5は、学年別の登録者数を示している。これらの表より年々登録者数が増えていることと、2012年頃までは殆どが高学年の学生であったが、1年生からの登録者数が増えてきていることが特徴であることがわかる。

表4. ボランティア学生の登録者数の推移

2011.05	2012.05	2013.05	2014.05	2015.05
20名	30名	51名	63名	88名

表5. ボランティア学生の学年別登録者数

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	転校
2012.05	0名	0名	1名	20名	5名	4名
2015.01	19名	7名	4名	26名	22名	4名

4. 学生による活動発表報告

学生がボランティア活動を行ったことによる貴重な体験ができた直接的な効果だけでなく、ボランティア活動のプレゼンテーション発表を行ったことも学生たちにとって良い経験となっている。主な学外のボランティア活動の発表実績を表6に示した。

表6 ボランティア活動の主な発表実績

年月	発表先
2011年11月	三重県知事とトークイン・キャンパス（みえの現場・すごいやんかトーク大学編でボランティア体験の発表）
2013年2月	三重県「学生」×「地域」の取組事例発表会 ベストプラクティスコンテスト
2014年2月	社会教育実践交流広場「地域と関わる学生」出展・発表
2014年3月	三重県「学生」×「地域」の取組事例発表会 ベストプラクティスコンテスト
2015年3月	三重県「学生」×「地域」の取組事例発表会 ベストプラクティスコンテスト

5. 学生による報告の事例

学生がボランティアを行った後に発表や報告を行なっている。その報告事例を3件と学生が考えている今後の目標を掲載する。

①青蓮寺の蓮の植え替え



図2. 青蓮寺の蓮の植え替え作業風景

概要：	<p>名張市にある「多宝山地蔵院青蓮寺」（以下、青蓮寺）にある蓮を年に一回植え替えをする作業を地元の方たちと一緒に行いました。</p> <p>青蓮寺は奈良時代後期、弘法大師空海によって開かれたとされています。寺名は大師が「青い蓮が咲き開く風景を見た」という言い伝えに由来し、周辺の地名になるほどに有名です。蓮は全国の様々な寺院などからいただき、現在は120鉢以上あります。中には1951年に千葉県で発見された弥生時代の「大賀ハス」などもあり、蓮の名所として多くの観光客が訪れます。この蓮を毎年春に地元の方たちと植え替えをしています。</p>
活動内容：	<p>蓮は大きな水瓶で育てられており、まずはその水瓶を順番に並べていきます。順番は蓮それぞれに決められていました。また、とても重いので、注意しながら並べました。次に蓮の根、蓮根を壺から取り出し、成長した蓮根を切り取り、一部をまた同じ壺の中へ植え替えます。取り出す時、蓮根が折れたりしないよう、慎重かつ真剣にしました。また、植え替えるときも番号通りに入れるよう気をつけて作業をしました。水瓶に入れた蓮は7月、8月頃に綺麗な蓮の花を咲かせました。</p>
感想・反省：	<p>年度最初のボランティアで、ボランティアに興味のある新入生も参加し、とても有意義でした。蓮の植え替えはとても大変な作業でしたが、地域の方々はとても優しく、休憩時間中にはみなさんとおしゃべりを交えながら交流もしました。このように地域の方々と交流できることは普段はなく、ボランティアはそんな貴重な経験ができる場所であると改めて感じました。ただ残念ながら、学生によって取り組みの姿勢に差が出てしまったようにも見えました。今後は学生全体の意識をより高めながら、地域に貢献できるよう努めていきたいと思っています。</p>

②名張市ジュニアリーダーについて

概要：	<p>私たち good job のメンバーの中には、名張市 kids サポータークラブ（以下、サポータークラブ）としてジュニアリーダーをしている学生がいます。このサポータークラブは名張市が行っている「ジュニアリーダー養成講座」を修了した中学生、高校生などが中心となって、名張市の各地の小学校やイベントで、小学生の子供たちとレクリエーションをしたり、キャンプをしたりしています。具体的な活動は以下の通りです。</p>
活動内容：	<p>1) わんぱく広場、百合小こどもクラブのキャンプ 前者は名張市青年会議所、後者は百合小こどもクラブが主催している、共に1泊2日のキャンプで、サポータークラブは小学生の引率、遊び相手をしています。一緒に野外炊飯やキャンプファイアなど行いました。</p> <p>2) ジュニアリーダー養成講座 この講座はサポータークラブに必要なキャンプに関するスキル、救急救命法、レクリエーション技術を身につけるために年一回行っています。特に今年は、受講開場で同時に開催されていた「教育フォーラム in 名張 2014」のボランティアもすることができたので、受講生は多くのことを学べました。</p>
感想・反省：	<p>私たちはこれらの活動を通じて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の小学生との関わりの中で学校の名前を知ってもらう ・個人のスキルアップ ・異世代の方々とのコミュニケーションをとることなど多くの収穫があります。 <p>今後の改善点としては、年長者の指示を待たずに先のことを考えて自ら動けるリーダーになっていきたいです。</p>



(a) (b) (c)
図 3. 名張市ジュニアリーダーの風景

③子育て応援わくわくフェスタについて

イベントの目的	・これはみえ次世代育成応援ネットワークが主催しているイベントで、毎年県内各地の都市で行われ、今年度は伊賀で開催されました。みえ次世代育成応援ネットワークとは、子ども・子育て家庭を支えたいという気持ちを持った方々の集まりで、様々な企業や団体の支援のもとで成り立っています。私自身も子どもが好きで、少子化対策について自分なりの考えを持てればと思い、参加しました。
活動内容	・名張駅からの送迎バス（三重交通の貸し切り路線バス）で、現地まで行きました。私が参加した日は4日のみで、その日は合計で8人の高校生ボランティアが来ていました。 ・現地に到着し、担当者の諸注意を聞いた後、3つのグループに分かれて、それぞれ違う活動をしました。 ・グループはローテーションで、結果的にすべての活動をしたことになりました。私がいたグループは、朝はみえ次世代育成応援ネットワークブースで風船配りをしていました。 ・昼休憩の後、着ぐるみを着て会場内を歩き回り、来場していた子供たちと写真を撮ったりしました。あまり長い間着ていられなかったため、途中休憩をはさみながら活動しました。着ぐるみのキャラクターは、伊賀鉄道のかぶとくん、伊賀市のにん太くん&しのぶちゃん、みえ次世代育成応援ネットワークキャラクターのみつるちゃん、の4種類があり、全部着ました。
反省点・改善点	・船を配っているときに何人かの子供が、「あ、この前のキャンプにいた人」と私の顔を覚えてくれていて、凄く嬉しかったです。しかし、名前までは覚えていなかったようなので、これからは子供たちとより積極的に接することができるように心がけ、名前も覚えてもらえればいいのかなと思います。

④ メンバーの学生たちが考える今後の方向性や目標

私たちは「誰もが無理のない範囲で地域貢献を行う」ことを目標としていて、協力が可能な依頼であれば応じるだけの活動でした。このスタンスはボランティアを長く続けていくうえでは必要かと思っています。ですが、登録人数が増えてきて、メンバーの意識にかなりの温度差が生じていることも事実です。今後は、学内でもメンバーが携わってきたボランティア活動について広く紹介したり、意見交換したりする機会を持ち、学生全体のボランティアに対する意識をより高め、広めていきたいと考えています。

私たちも様々な活動を通して、たくさんの地域の方々や、異世代の方々との交流などができ、ボランティアとして出向いた先の様々な団体さんから感謝されると、ボランティア活動に参加して良かったと思え、次の活動への意欲も高まります。このようなボランティアを通しての自分の成長や意識の変化を周囲の学生に伝えていくことで、少しずつでも、ボランティアに携わる気持ちを育てていくことができるのではないかと思います。最終的には、学生自ら積極的に活動に参加して、将来自ら、災害復旧、青少年の教育支援、社会福祉、伝統文化継承、児童の育成、などの分野で社会貢献でき、様々な面で人の役に立つ事のできる人間になることを目指しています。

全国的にも言われていますが、三重県は特に少子高齢化社会が深

刻な問題となっています。このような中で、私たちボランティアが地域活動の担い手となり、地域の魅力を発信することで、地域活性化を促し、人口減少に歯止めをかけることに少しでも寄与できればと考えています。

この④の報告にあるように、年々登録学生数が増えてきたが、先方の希望するある特定の日に何名のボランティアが派遣できるかという点、よく活動に参加してくれている学生例えば5名前後に加えて年に数回程度しか参加できない学生の人数2名程度の多くても合計7名程度ということになり、よく活動している数名とあまり参加できない学生とのモチベーションの差が生じている。現状としては、例えばテスト期間中やテストの前の週のボランティア活動は難しかったり、平日は放課後が活動時間となるが授業が遅くまであることもあったりして、学生のボランティア活動できる日数や時間帯が限られることが多い。よく活動している学生の数を増やしていくことやこちらから積極的にボランティア活動を行うことができていないことが問題点である。

5. まとめ

現在のボランティアグループ「Good Job」の活動は、

- 地域の方々との交流を図り、地域の魅力を発信すること
- 様々な年代の方々とのコミュニケーション能力の育成
- 様々な地域の文化・歴史・習慣を活かした活動に取り組み、地域の発展に貢献すること
- 将来、地域の社会活動に積極的に参加する気持ちの育成
- 個人の人格形成に役立たせること
- 学校の存在とボランティア活動して地域貢献していることを地元の方々への知ってもらうこと

などを目的として、市町村からの依頼や様々な団体からの依頼を受けて、ボランティア活動を行っている。

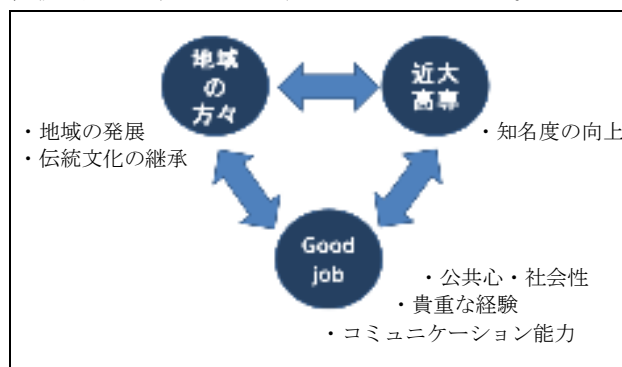


図 4. Good Job、地域、近大高専のメリット

図 4 に示したように、Good Job のボランティア活動は、地域が発展し、学校の知名度も上がり、学生にとっては、貴重な体験ができ、公共心・社会性・コミュニケーション能力が身につく、人格形成に役立つという、win-win-win の関係が成立している。